

概要

人口動態統計は、出生、死亡、死産、婚姻、離婚の5つの事象を、市町に届け出された各届書から調査、把握したもので、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしています。平成19年中における本県の人口動態の概況は、次のとおりです。

(表1) 人口動態の概況

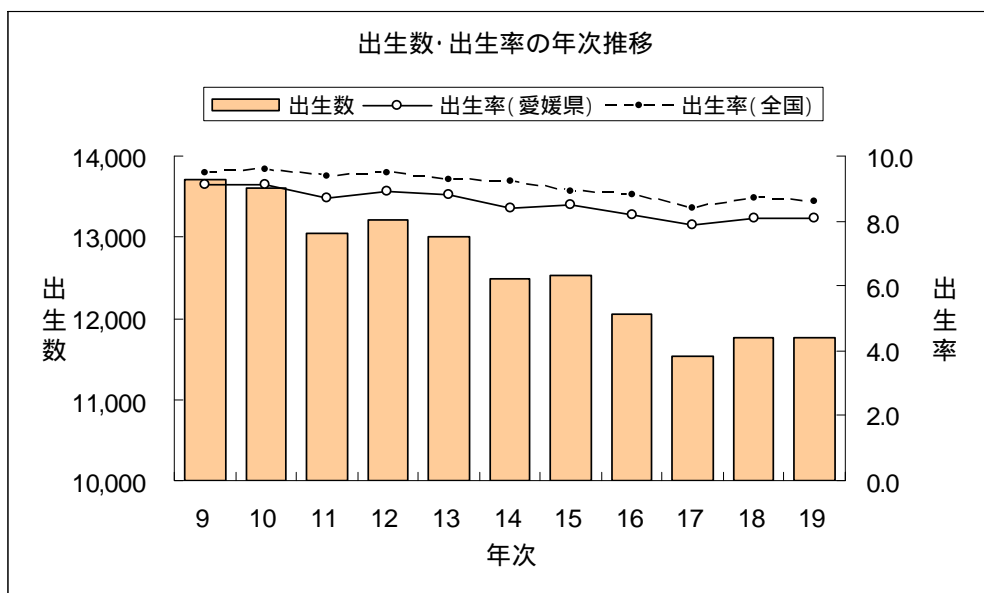
区分	実数			率			全国(19年)	
	平成19年	平成18年	差引	平成19年	平成18年	差引	実数	率
出生	11,753	11,752	1	8.1	8.1	-	1,089,818	8.6
死亡	15,427	15,335	92	10.7	10.6	0.1	1,108,334	8.8
乳児死亡	25	17	8	2.1	1.4	0.7	2,828	2.6
新生児死亡	13	6	7	1.1	0.5	0.6	1,434	1.3
自然増加	3,674	3,583	91	2.5	2.5	-	18,516	0.1
死産	384	356	28	31.6	29.4	2.2	29,313	26.2
自然死産	144	120	24	11.9	9.9	2.0	13,107	11.7
人工死産	240	236	4	19.8	19.5	0.3	16,206	14.5
周産期死亡	62	45	17	5.3	3.8	1.5	4,906	4.5
妊娠満22週以後の死産	53	41	12	4.5	3.5	1.0	3,854	3.5
早期新生児死亡	9	4	5	0.8	0.3	0.5	1,052	1.0
婚姻	7,302	7,460	158	5.1	5.1	-	719,822	5.7
離婚	2,898	3,056	158	2.01	2.10	0.09	254,832	2.02

	愛媛県		全国	
	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年
合計特殊出生率	1.40	1.37	1.34	1.32

注1) 率: 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対, 乳児・新生児・早期新生児死亡は出生千対, 死産は出産(出生+死産)千対, 周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。
 注2) 周産期死亡数は 妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものである。

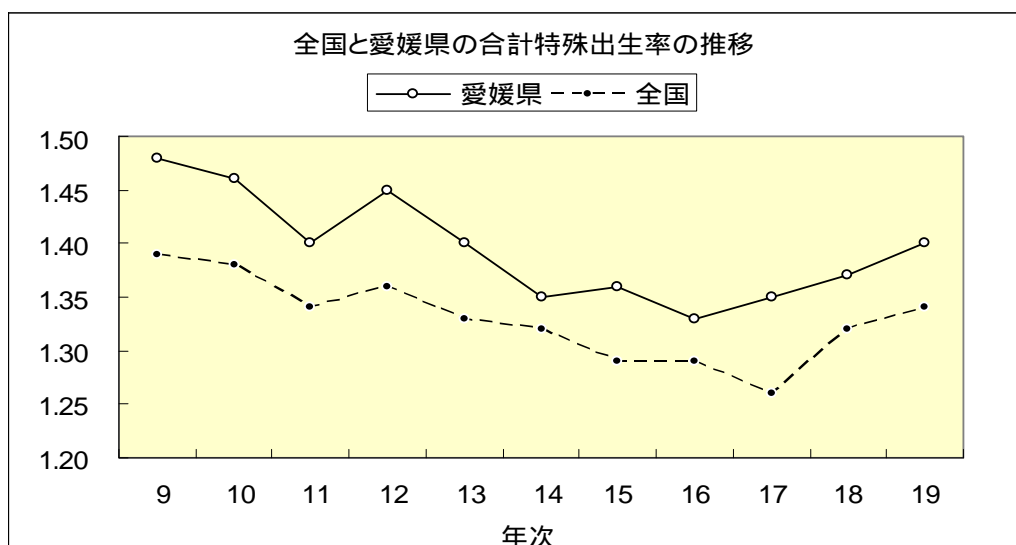
1 出生

出生数は11,753人で前年に比べて1人増加し、出生率(人口千対)は8.1で前年と同率でした。



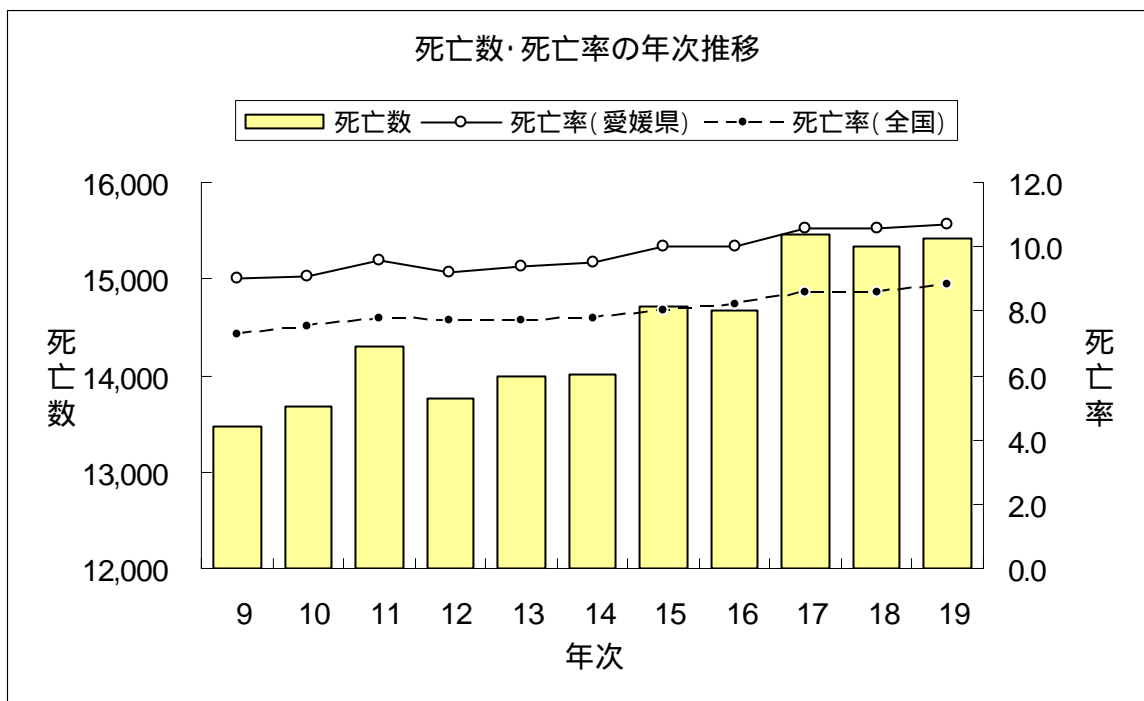
これは都道府県別の上位33番目で、全国平均に比べ0.5ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

今後も平成19年と同じ率で子供が産まれると仮定すると、一人の女性が生涯に産む子供の数の平均(平成19年の合計特殊出生率)は1.40人で、前年を0.03ポイント上回りました。



2 死亡

平成19年中の死亡数は15,427人で、前年に比べて92人増加し、死亡率(人口千対)は10.7で前年より0.1ポイント上回りました。



これは都道府県別の上位10番目で、全国平均に比べて1.9ポイント高く、四国内では高知県について2番目に高い率でした。

10位までの死因順位を年次別にみると、表2のとおりです。県内の上位10位までの年次別死因順位は表3のとおりで、上位3死因と死亡率(人口10万対)は、

- | | | |
|---|-------|----------------|
| 1 | 悪性新生物 | 294.6(全国266.9) |
| 2 | 心疾患 | 200.5(全国139.2) |
| 3 | 脳血管疾患 | 116.7(全国100.8) |

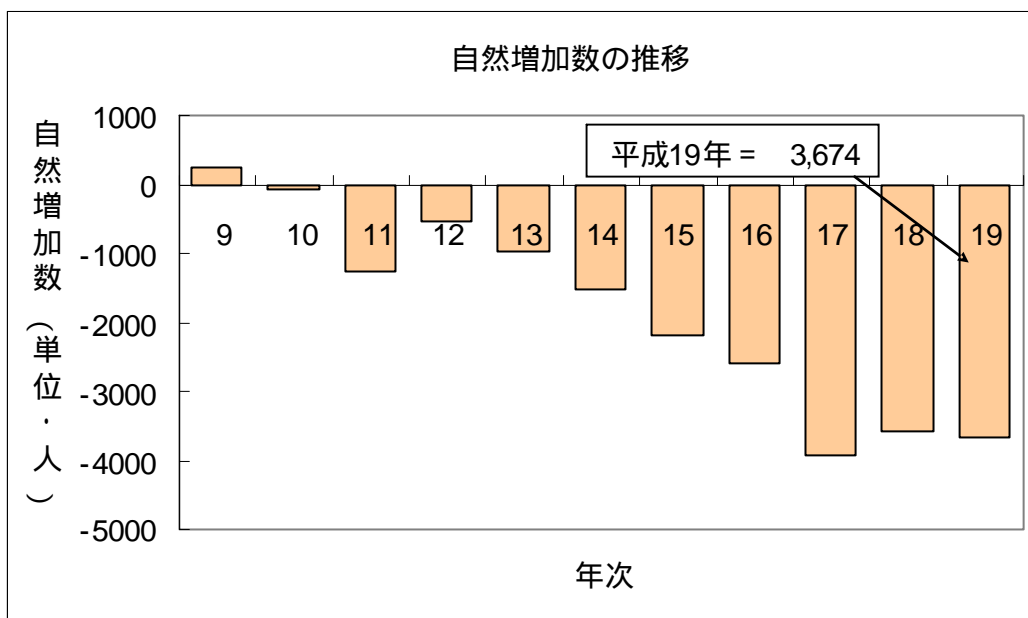
でした。

なお、「悪性新生物」による死亡を部位別、年次別にみると表4のとおりです。

3 自然増加

平成19年中の自然増加数はマイナス3,674となり、前年に比べ91人減となりました。

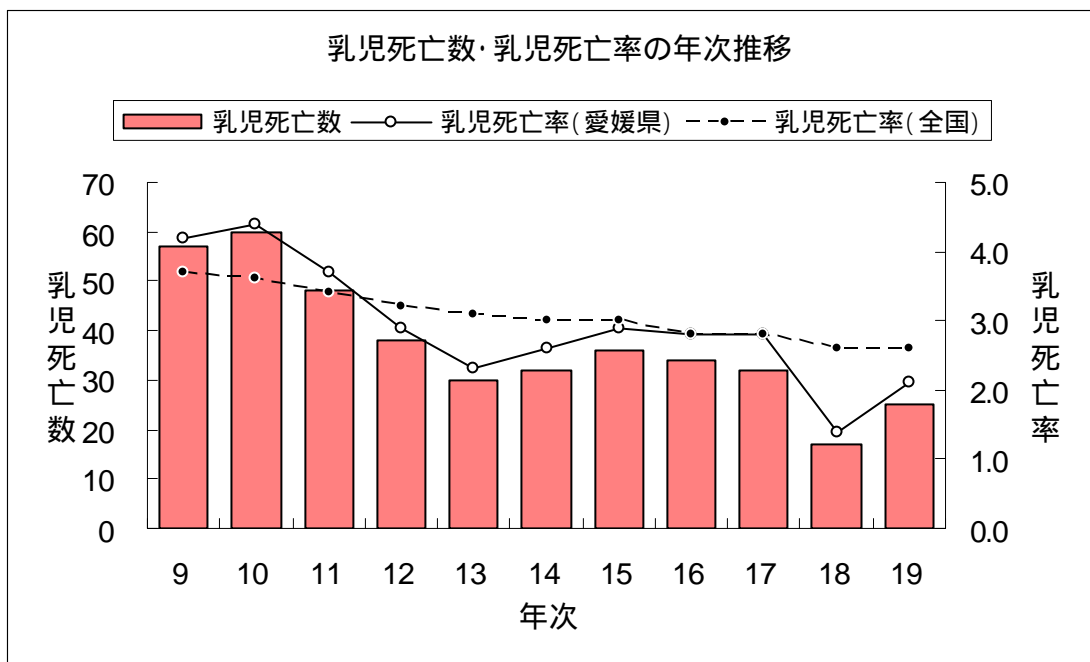
自然増加率はマイナス2.5で、前年と同率でした。



これは全国平均に比べて、2.4ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

4 乳児死亡

平成19年中の乳児死亡は25人で、前年に比べて8人増加し、乳児死亡率(出生千対)は2.1で、前年より0.7ポイント上回りました。

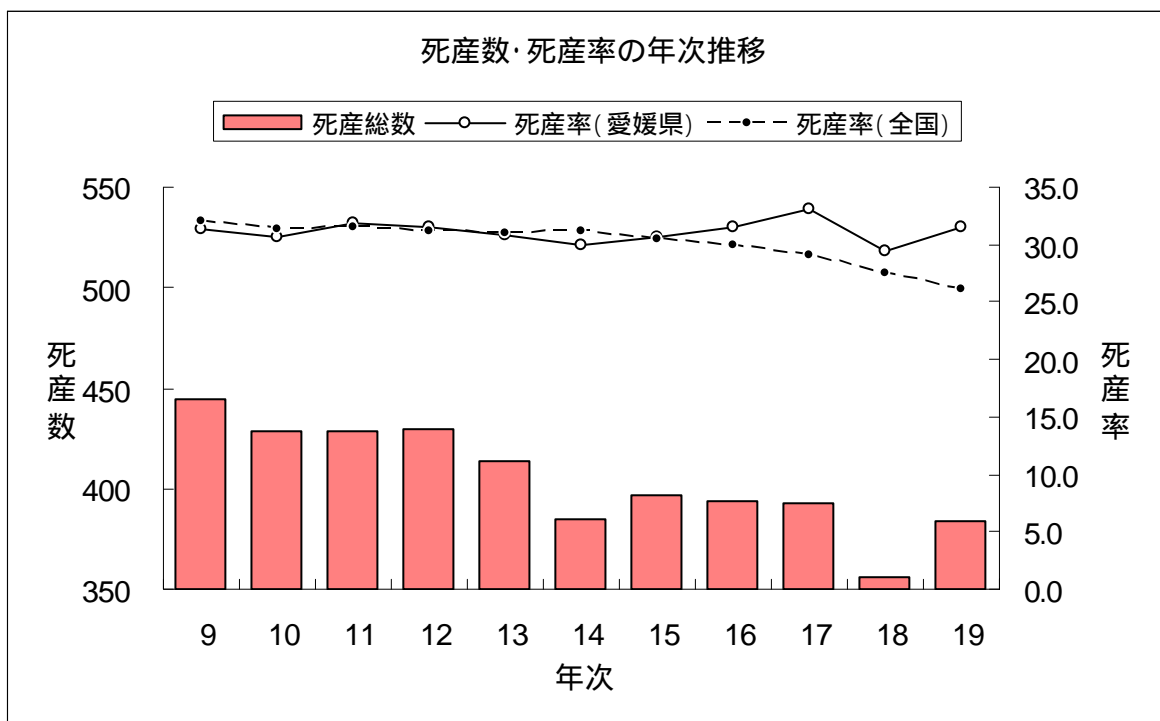


これは全国平均より0.5ポイント低く、四国内では高知県、徳島県について3番目に高い率でした。

5 死産

死産とは妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産に区分されます。

平成19年中の死産は384胎で、前年から28胎の増加となり、死産率(出産千対)は前年を2.2ポイント上回る31.6でした。

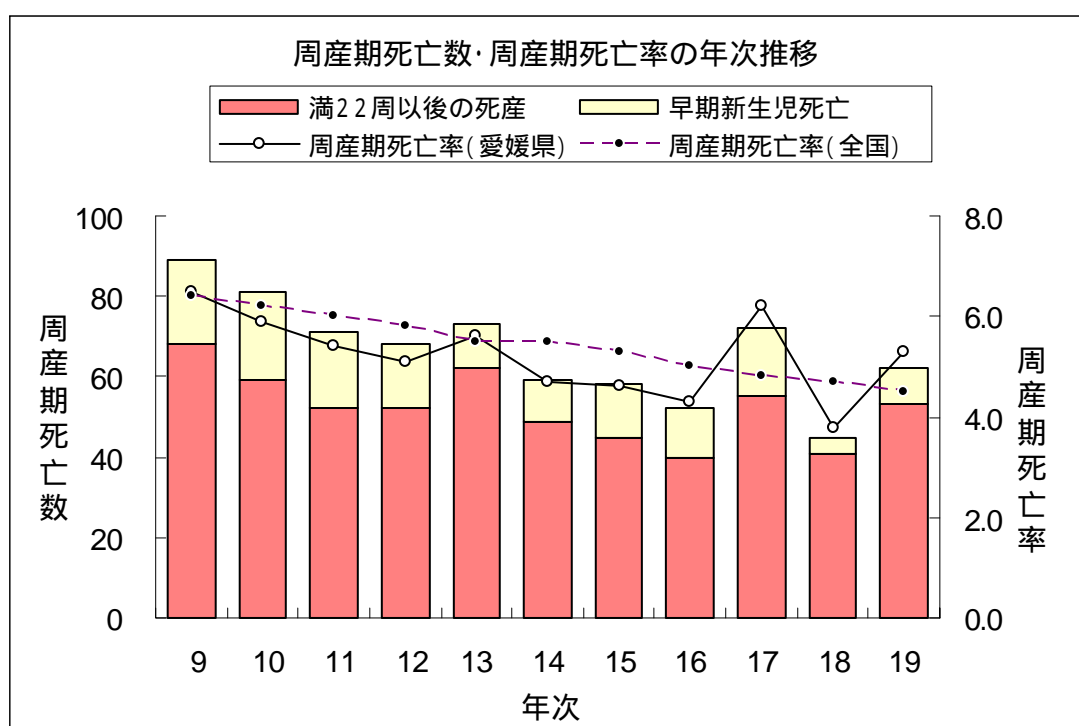


これは全国平均に比べ5.4ポイント高く、四国内では高知県について2番目に高い率でした。

6 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせて周産期死亡と
いいます。

平成19年中の周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産53胎、早期新生児死亡9
人となっています。前年に比べて、前者は12胎、後者は5人増加しました。総数では6
2件で、前年に比べ17件増加しました。



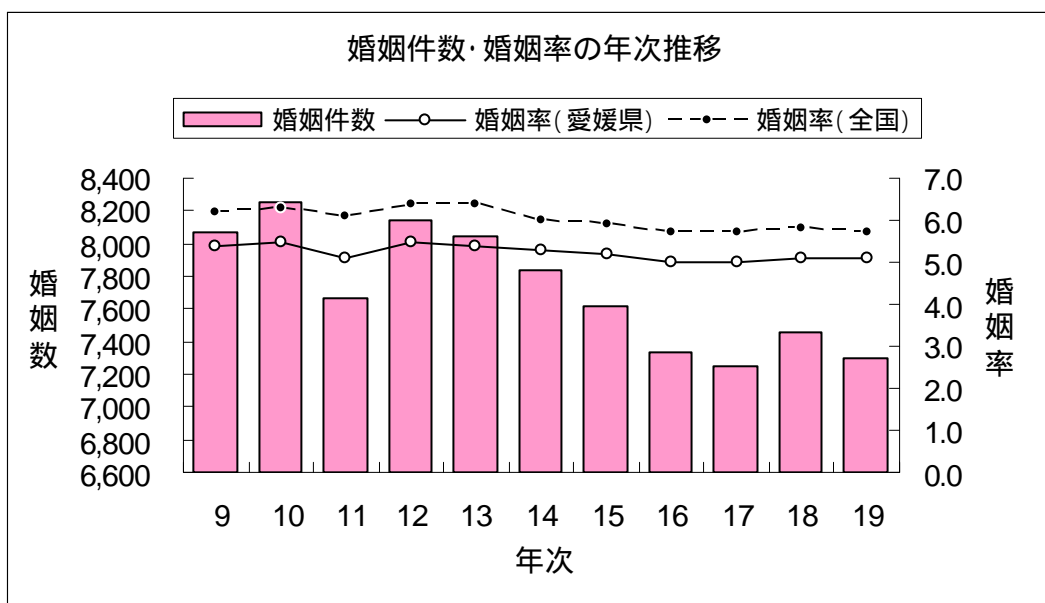
周産期死亡率(出産千対)は、妊娠満22週以後の死産4.5、早期新生児死亡0.8で、
全体では5.3となっており、前年に比べて1.5ポイント増加しました。

全体の周産期死亡率5.3は、全国平均に比べ0.8ポイント高く、四国内では高知県
について2番目に高い率でした。

なお、平成7年からは、「国際疾病障害死因分類」(ICD)の改訂に伴い、周産期死亡
における後期死産の定義も「妊娠満28週以降」から「同22週以降」の死産へと変更さ
れました。本書では、平成6年以前にも遡って満22週以降で計算し直した数値を用い
ています。

7 婚姻

平成19年中の婚姻件数は7,302件で、前年に比べて158件減少し、婚姻率(人口千対)は5.1で前年と同率でした。

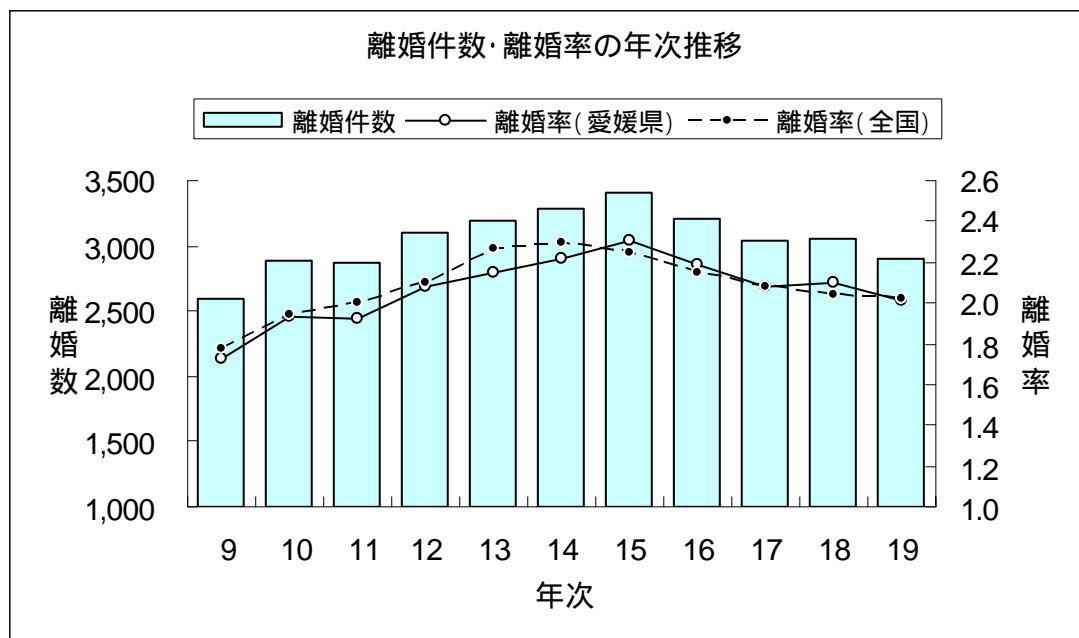


これは全国平均に比べ0.6ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

なお、初婚者の平均婚姻年齢は、夫29.0歳(前年29.1歳)、妻27.5歳(前年27.5歳)となっています。全国では、初婚者の平均婚姻年齢は夫30.1歳、妻28.3歳でした。

8 離婚

平成19年中の離婚件数は2,898件で、前年に比べて158件減少し、離婚率(人口千対)は2.01で前年を0.09ポイント下回りました。



これは全国平均より0.01ポイント低く、四国内では高知県に次いで2番目に高い率でした。